

## 「洪水から暮らしを守り、市民に安らぎを」 ～鶴見川流域センター、鶴見川多目的遊水地～

昼食後、鶴見川流域センターを訪問いたしました。

遊水地に関して流域の航空写真や3D地図の展示、鶴見川流域に降った雨水の流れ等を、模型とビー玉を利用して子供たちにもわかりやすく、楽しみながら理解できる施設となっております。鶴見川流域はバクの形であるため、説明の中にも親しみやすい工夫がされておりました。

鶴見川流域センターには、都市部上空に出現した雨雲を素早く、細かくとらえ、水害防止に役立てるためのXバンドMPレーダー（レーダー雨量計）が設置され、CCTVカメラや水位計・流量センサーで監視をし、リアルタイムモニタリングしながら、常に危険に備えているとのことでした。

屋上展望台にて、鶴見川多目的遊水地の説明を職員の方にしてもらいました。

屋上展望台からは、鶴見川多目的遊水地を一望（3P下段の写真参照）でき、越流堤や排水門などの遊水地施設を確認することができました。

施設としては、遊水地面積84ha、貯水容量390万 $\text{m}^3$ であり、東京ドーム約3杯分もの水をためることができるそうです。鶴見川から越流堤を通して流入した河川水を一旦減勢池に入れ、その後貯留されていきます。私たちが普段目にしていない日産スタジアムの下や運動公園自体が遊水地となっているとの説明を受け、台風19号における鶴見川からの流入状況の写真や過去最大に貯留した平成26年10月の台風



～越流堤（堤防の高さを低くして遊水地へ誘う）～

18号時の写真を見て参加者全員驚きをおぼえました。職員の説明によると、元々遊水地として使用することを想定しているため、日産スタジアムは高床式のピロティ方式を採用しているとのことでした。

貯留された河川水の排水に関しては、鶴見川の状況を見ながらはなりますが、最大貯留時でも24時間で排水できる設計になっているそうです。

### まとめ

河川流域にある遊水地は、市、県及び国が一体となって、大雨や台風の際も、河川の氾濫を防ぐために、私たちの見えないところで活動していただいていることに感謝したい。

また、台風19号直後の現地視察ということも重なり、遊水地の必要性、重要性を再認識することができ、貴重な一日を過ごすことができました。



流域センターから多目的遊水地を眺望（公園内に溜まった土砂の清掃により立入禁止）